

# 色彩学

BULLETIN OF THE COLOR SCIENCE ASSOCIATION OF JAPAN

VOLUME 1 NUMBER 3 2022



## 巻頭言 DX! 日本色彩学会

理事・広報委員長 若田 忠之(早稲田大学)

### DXってなんでしょう?

DXとはDigital Transformationの略であり、次のように定義されています。

Digital Transformation (デジタルトランスフォーメーション)

企業が外部エコシステム(顧客, 市場)の劇的な変化に対応しつつ, 内部エコシステム(組織, 文化, 従業員)の変革を牽引しながら, 第3のプラットフォーム(クラウド, モビリティ, ビッグデータ/アナリティクス, ソーシャル技術)を利用して, 新しい製品やサービス, 新しいビジネスモデルを通して, ネットとリアル両面での顧客エクスペリエンスの変革を図ることで価値を創出し, 競争上の優位性を確立すること。

総務省HP [デジタル・トランスフォーメーションの定義]より引用  
<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r03/html/nd112210.html>

簡単に要約しますと, 単なる電子的な置き換えだけでなく, 環境やシステムそのものに対して情報技術の側面から改革を行うことであるといえます。

### 今の色彩学会とDX

本学会では, 会員の皆様へのサービスをはじめとして, 外部への学会の魅力の発信等, DXに取り組んでおります。

DXの取り組みの中で分かりやすい第1歩としては学会誌の電子化が挙げられます。2022年より「色彩学」「日本色彩学会論文誌」と2つに分かれてHP上で閲覧可能になりました。2020年以降は全国大会や研究会大会をはじめとした各種イベントのオンライン化・ハイブリット化もその1例です。また, 学会理事会や大会実行委員会などは2015年よりオンライン会議を徐々に導入しており, 現在の理事会は完全オンラインで進められています。

ここで上げた電子化はDXにももちろん含まれますが, ほんの入り口にしかすぎず, その手前の“デジタルイゼーション”の領域といえます。これからはDXによって学会の外にも効果を波及させて, 会員増, 学会の魅力増につなげていく予定です。

### 「色・色彩」と「リアル」

DXは単に電子化しておしまいではありません。電子化やシステム化に加えて“リアル”も忘れてはならない重要な要素です。オンラインの会議は移動の手間が省けるなどのメリットはあるかもしれませんが, しかし, その場の空気感などは絶対にデジタル化できない重要な要素です。この点は私自身が第53回の全国大会に3年ぶりに会場に参加をして強く感じました。何よりも, 絵画しかり, 化粧しかり, 風景しかり, 本学会の柱となるテーマの「色・色彩」には電子化できない要素がたくさんあります。直接見てこそその「色」もあるわけです。

「色・色彩を見る」という観点については他の学会などと大きく異なる本学会の特徴なので, 全てを電子化するわけではなく, ここは大事に護っていききたい部分です。

### これからの色彩学会とDX

広報委員会を中心とした色彩学会の運営ではHPの改修や新機能の実装を中心として, 会員の皆様により良い色の情報をお届けできたらと考えています。DXには会員の皆様の協力も必要になってきますので, もし分からない・使いにくいといったことがあれば, 是非学会事務局までご意見をお寄せください。出来る限りのサポートを致します。こんな機能がほしい, こうしたら便利じゃないか?といったアイデアもぜひ積極的に教えてください。これから「DX」を通してより面白く変わっていく色彩学会を楽しみにしててください!